広場と制札

現存の中世制札から

論文要旨

制札には、特定の場を作り出し、立入を拒否し、また逆に人を招き寄せることができる機能がある。人々が集まる場としての「広場」と密接な関わりを持ち存在であり、それが中世においていかなるものであったか、特に人々の目に映った制札のどのようなものだったのかを、今日に残る中世の制札から考えてみた。

現在のものは大部分が武家の発案したもので、内容は、寺社に出された猿轡の停止が多く、一六世紀後半からは市場、宿などに出された市保護などの制札地域性がうかがえる。この他、板の質、掲示の方法、風化の仕方など、その内容や機能と深く関わっていることがわかる。

小島道裕

広場と制札

現存の中世制札

論文要旨

制札には、特定の場を作り出し、立入を拒否し、また逆に人を招き寄せることができる機能がある。人々が集まる場としての「広場」と密接な関わりを持ち存在であり、それが中世においていかなるものであったか、特に人々の目に映った制札のどのようなものだったのかを、今日に残る中世の制札から考えてみた。

現在のものは大部分が武家の発案したもので、内容は、寺社に出された猿轡の停止が多く、一六世紀後半からは市場、宿などに出された市保護などの制札地域性がうかがえる。この他、板の質、掲示の方法、風化の仕方など、その内容や機能と深く関わっていることがわかる。

小島道裕